

「胃 形態とその機能」第2版

京都府立医科大学教授・公衆衛生学 川井 啓市 編集
 大阪府済生会野江病院消化器科医長 井口 秀人 編集協力
 京都第一赤十字病院胃腸科副部長 清水 誠治

日本大学医学部客員教授

松 尾 裕

このたび、京都府立医科大学・川井啓市教授編集による「胃 形態とその機能」第2版が、医学書院から出版された。その内容は、現時点における胃の形態とその機能に関する最先端の研究状況を、誠に驚くべきほど見事に、ほとんど完璧に網羅したものであり、胃という器官が実に魅力的なものであることを知らされる。

編者の川井教授は、序文に書かれているように今から20年前、1975年に「胃 その形態と機能」を出版されており、当時としても誠にユニークなものであった。というのは、先生は臨床医として胃の内視鏡学のわが国のリーダーシップをとる1人として活躍された方であると同時に、胃の形態と機能についての基礎的研究を、当時の胃粘膜細胞回転研究のバイオニアであった同大学第2病理学教室の藤田哲也教授と共に、先生の研究グループによる論文をまとめられたのである。その内容は、胃の形態と機能に関する基礎と臨床について誠に斬新なものであり、編者の言う「胃学」に、本邦における消化器病の学徒は大きな刺激を受けたのである。

それから20年、「胃学」は驚異的に発展し、多くの知見が加えられ、編者の言うごとく、今回の出版は

1975年の本の改訂版というよりは、その内容を一新したものであり、初版とも言うべきものである。というのは、題名が「胃 その形態と機能」から「胃 形態とその機能」となったが、編者の念願でもあった形態と機能との相関が、基礎的にも臨床的にもこの本で明確にすることができたということであり、誠に敬服に値する。

また初版では編者の研究グループの先生方の執筆により本の内容の一貫性を保つのに努力されたが、今回はこの20年間における驚くほどの多岐にわたる「胃学」の知見をすべて網羅すべく、各分野の第一人者が執筆されている。更に、編者が最終的に原稿内容に手を入れ、書籍としての一貫性を保つよう努力されており、各章の冒頭に新しい内容の紹介と同時に今後の問題について編者自身の考えが提起されている。また随所に explanatory section を設け、読者に対し更に理解を深められるよう便宜をはかっておられる。

第I章の「胃・十二指腸の基本構造」では、胃の系統発生と個体発生、内視鏡的超音波による3次元分解、最新方法による胃腺の分化増殖、血管支配、神経支配などの知見、また細胞骨格という最先端の知見が記載されている。第II章の「胃・十二指腸の機能」では、酸、ペプシン、

粘液、消化管ホルモン運動などの研究の現状が述べられ、将来への問題提起や細胞レベルでの研究成績は、若い研究者にとって非常に参考になると思う。第III章の「ストレスと粘膜防御機構」では、胃における血流、粘液、細胞回転、重炭酸分泌、プロスタグランジン、活性酸素についての新知見を余すところなく記載されている。第IV章として、今日最も関心の深い「*Helicobacter pylori*」を独立して設けられていることも、本書がいかに up-to-date のものであるかを示すものである。第V章の「疾患論」では、できるだけ形態と機能の異常としての消化管疾患を把握できるよう努力されている。

以上のごとく、この本は編者の言う「胃学」について、若い世代に属する臨床医や研究者のための教科書でもあり、また胃に関する生物学、解剖学の辞書にも匹敵する内容と質を備えたものである。その意味で本書は、消化管学の臨床と研究に従事している各位だけではなく、関連する分野の各位にも必ず参考に供すべき書物であることから、広く先生方にお勧めしたい良書であることを確信する。

● B5 368頁 図148 写真76
 原色図45 1994 定価21,630円
 (税込) 千450

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)